# 2017年3月期 第2四半期決算報告

2016/11/14

第一生命ホールディングス株式会社



- 第一生命ホールディングスの稲垣です。
- 本日は、第一生命グループの2017年3月期第2四半期の決算報告に ご参加いただきまして、ありがとうございます。
- ご案内の通り、第一生命グループは持株会社体制への移行を完了し、 10月1日より、第一生命ホールディングスを上場持株会社とする体制 にて新たにスタートしました。第一生命グループは、この持株会社体制 への移行を2010年4月の株式会社化・上場に続く「新創業第2ステー ジ」と位置付け、グループを挙げて更なる成長加速に取り組んでいきま す。
- それでは、決算報告を行います。いつものように、私から資料に沿って 決算内容についてご説明し、残りの時間を質疑応答とさせていただき ます。
- 1ページをご覧ください。



- 当第2四半期累計の連結業績は減収・減益。減収の要因は、低金利環境の継続を踏まえて一時払商品の販売抑制を行ったほか、円高の進行による外貨建証券からの利息配当収入が減少したため。減益の要因は、主に第一フロンティア生命において金利変動を背景とする会計的影響があったため。
- 第一フロンティア生命における保険販売の進捗を踏まえ、同社ならびに連結の経常収益の予想を下方修正。また、第一生命における円高の影響を踏まえ、同社ならびにグループの基礎利益の予想を下方修正。ただし、連結経常利益、連結純利益(親会社株主に帰属する純利益)および1株当たり株主配当の予想は据え置き。
- 2016年9月末のグループ・エンベディッド・バリューは、3月末比で減少し、約4. 4兆円。主に円高の進行に伴い、第一生命の外貨建資産や海外事業のEVの円換算値が減少。ただし現地通貨ベースでは、海外各事業においてEVが増加。

- 今回の決算のポイントを以下の3点にまとめました。
- 第一に、当第2四半期累計の連結業績は減収・減益となりました。経常収益の減少は、低金利環境の継続を踏まえて一時払商品の販売抑制を行ったほか、円高の進行により外貨建証券からの利息配当金収入が減少したことが主な要因です。また、経常利益、純利益の減少は、主に第一フロンティア生命において金利変動を背景とする会計的影響があったためです。
- 第二に、業績予想修正についてお話します。第一フロンティア生命における保険販売の進捗を踏まえ、同社ならびに連結の経常収益の予想を下方修正しました。また、第一生命における円高の影響を踏まえ、同社ならびにグループの基礎利益の予想を下方修正しました。ただし、経常利益、純利益および1株当たり株主配当の予想は、今後の金融環境の影響を見極める必要があるため、据え置きとしています。
- 第三に、2016年9月末のグループ・エンベディッド・バリューは、3月末比で約4.8%減少し、約4.4兆円となりました。主に円高の進行に伴い、第一生命の外貨建資産や海外事業のEVの円換算値が減少しました。ただし現地通貨ベースでは、海外各事業においてEVが増加しました。
- 2ページをご覧下さい。

### 第一生命グループ業績 - 業績ハイライト



- 連結経常収益は、低金利環境を踏まえた販売抑制などにより、減少。これを踏まえ、第一フロンティア生命の経常収益および連結経常収益について、通期予想を下方修正。
- 連結経常利益・連結純利益 "は、円高の影響などで減少も、期初の通期予想対比で想定線。

(億円)	く参考
用比	201 発
△13%	
	1

				150	(億円)
		16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計(a)	前年同	司期比
連	結経常収益	36,833	31,901	△4,932	△13%
	第一生命単体	21,049	20,277	△772	△4%
連	結経常利益	2,412	2,203	△208	△9%
	第一生命単体	1,840	1,826	△14	△1%
連	a結純利益 <sup>(1)</sup>	1,351	1,060	△291	△22%
	第一生命単体	909	848	△61	△7%

く参考>		
2016/5/13 発表予想	2016/11/14 発表予想(b)	進捗率(a/b)
64,600	62,770	51%
37,960	37,960	53%
4,060	4,060	54%
3,240	3,240	56%
1,970	1,970	54%
1,330	1,330	64%

(1) 連結純利益は、親会社株主に帰属する中間純利益を記載しています。

- 業績ハイライトをお示ししています。
- 連結経常収益は<u>前年同期比13%減</u>の3兆1,901億円、連結経常利益は 同9%減の2,203億円、親会社株主に帰属する中間純利益は<u>同22%減</u>の 1,060億円と、減収・減益決算となりました。
- 減収の要因は、第1四半期に続き、国内生保事業において一時払商品の販売を抑制したためです。こうした販売抑制や金融環境の変動による影響もあって、銀行窓口等における保険販売が減速したため、第一フロンティア生命ならびに連結の経常収益の予想を下方修正しました。
- 減益の要因は、主に第一フロンティア生命における収支の悪化ですが、この一部を海外事業における利益貢献の増加が相殺しています。 期初の通期予想に対しては、経常利益、純利益いずれも54%の進捗率となりました。
- 3ページをご覧下さい。

### 第一生命グループ業績 - 連結主要業績



#### 連結損益計算書(要約)(1)

#### (億円)

	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	増減
経常収益	36,833	31,901	△4,932
保険料等収入	27,900	22,706	△5,193
資産運用収益	7,100	7,135	+35
うち利息・配当金等収入	5,305	5,230	△74
うち有価証券売却益	1,297	1,009	△287
うち金融派生商品収益	1-1	135	+135
その他経常収益	1,832	2,058	+225
経常費用	34,421	29,697	△4,723
うち保険金等支払金	19,664	17,898	△1,765
うち責任準備金等繰入額	5,571	2,185	△3,386
うち資産運用費用	3,982	4,252	+270
うち有価証券売却損	337	333	Δ
うち有価証券評価損	57	101	+43
うち金融派生商品費用	228	-	△228
うち為替差損(2)	1,731	2,935	+1,203
うち特別勘定資産運用損	1,208	390	Δ81
うち事業費	3,258	3,159	△99
経常利益	2,412	2,203	△208
特別利益	1	44	+43
特別損失	116	258	+142
契約者配当準備金繰入額	457	450	Δ
税金等調整前中間純利益	1,839	1,539	△300
法人税等合計	487	478	Δ8
非支配株主に帰属する中間純利益	0	0	+(
親会社株主に帰属する中間純利益	1,351	1,060	△291

### 連結貸借対照表(要約)

(億円)

	16/3末	16/9末	増減
資産の部合計	499,249	497,418	△1,830
うち現預金・コール	9,603	11,050	+1,447
うち買入金銭債権	2,392	2,214	△178
うち有価証券	415,600	412,864	△2,735
うち貸付金	37,155	35,733	△1,422
うち有形固定資産	11,788	11,618	△169
うち繰延税金資産	13	12	Δ0
負債の部合計	469,919	469,035	△883
うち保険契約準備金	438,940	431,213	△7,726
うち責任準備金	429,225	422,296	△6,928
うち社債	4,856	9,234	+4,378
うちその他負債	14,866	15,957	+1,091
うち退職給付に係る負債	4,438	4,439	+1
うち価格変動準備金	1,552	1,647	+95
うち繰延税金負債	2,707	2,719	+11
純資産の部合計	29,329	28,382	△946
うち株主資本合計	11,292	11,807	+515
うちその他の包括利益累計額合計	18,026	16,565	△1,461
うちその他有価証券評価差額金	18,400	18,054	△346
うち土地再評価差額金	△164	△186	△22

<sup>(1)</sup> 特別勘定資産運用損益は、責任準備金の戻入れ/繰入れで相殺されるため、 経常利益に影響するものではありません。

- 連結主要収支の詳細をご説明します。
- 経常収益は前年同期比<u>約4,900億円の減収</u>となりました。これは主に、 国内において一時払商品の販売を抑制したことを受け、保険料等収入 が減少したためです。
- 経常費用のうち、保険金等支払金が<u>同約1,800億円減少</u>しておりますが、これは、前年同期において、厚生年金基金の解散に伴う団体年金の多額の解約が発生していたためです。ただし、この影響は責任準備金の調整を通じて相殺されるため、利益への影響はほとんどありません。責任準備金等繰入額の<u>同約3,400億円の減少</u>は、第一フロンティア生命における保険販売の減速に伴う繰入額の減少や、円高による外貨建商品に係る責任準備金戻入れによるものです。資産運用費用は主に為替差損の拡大により増加しましたが、為替差損の多くは、ただ今ご説明した責任準備金の戻入れにより相殺されています。
- 以上のことから、経常利益・純利益は減益となりました。
- 4ページをご覧下さい。

<sup>(2)</sup> 為替差損(2,935億円)には、第一フロンティア生命で計上した為替差損2,499億円が 含まれており、その多くは責任準備金の戻入れにより相殺されるため、経常利益に 影響するものではありません。

### 第一生命グループ業績 - グループ各社の業績

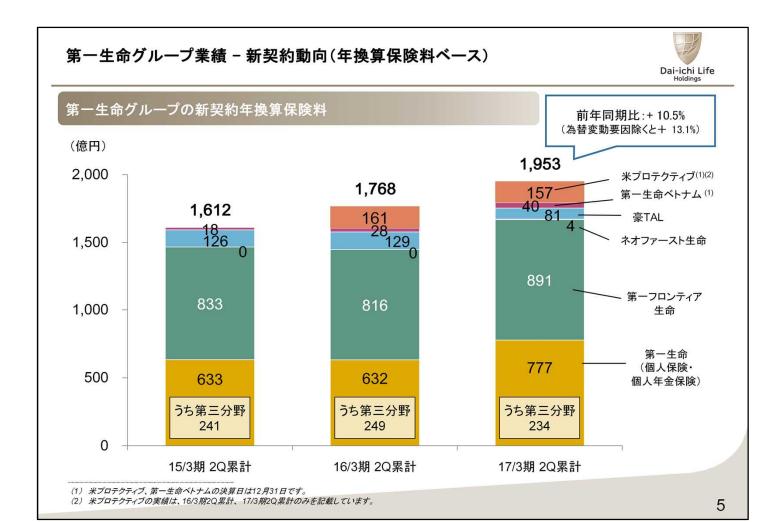


	Ī	(第一生命)	]	【第一	フロンティア	7生命】	【米プロテ	クティブ】(1)	8	【豪TAL】 <sup>⑴</sup>	)		【連結】	
			(億円)			(億円)	( <u>F</u>	5万米ドル)		(百	万豪ドル)			(億円)
	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	前年 同期比	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	前年 同期比	16/3期 2Q累計 (2-6月)	17/3期 2Q累計 (1-6月)	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	前年同期比	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	前年同期比
経常収益	21,049	20,277	△4%	10,406	6,355	△39%	3,472	4,312	1,626	1,844	+13%	36,833	31,901	△13%
保険料等収入	14,071	13,142	△7%	9,919	5,406	△45%	2,130	2,693	1,449	1,662	+15%	27,900	22,706	△19%
資産運用収益	5,459	5,262	△4%	486	615	+27%	1,149	1,412	14	138	+863%	7,100	7,135	+0%
経常費用	19,209	18,450	△4%	10,082	6,357	△37%	3,282	3,971	1,550	1,722	+11%	34,421	29,697	△14%
保険金等支払金	13,631	11,453	△16%	2,960	3,102	+5%	1,865	2,393	937	1,135	+21%	19,664	17,898	△9%
責任準備金等繰入額	267	1,613	+503%	4,106	6	△100%	929	807	168	173	+3%	5,571	2,185	△61%
資産運用費用	1,624	1,304	△20%	2,446	2,896	+18%	60	284	90	22	△76%	3,982	4,252	+7%
事業費	2,015	2,088	+4%	510	319	△37%	308	384	301	334	+11%	3,258	3,159	△3%
経常利益(△は損失)	1,840	1,826	△1%	324	Δ2		189	340	75	122	+62%	2,412	2,203	△9%
特別利益	1	44	+3,511%	-	-			0				1	44	+3,326%
特別損失	104	243	+134%	12	15	+23%	1 <del>2000</del> 1	0	0	<del></del>	△100%	116	258	+122%
純利益 <sup>(2)</sup> (Δは損失)	909	848	△7%	286	Δ17		126	227	56	78	+40%	1,351	1,060	△22%

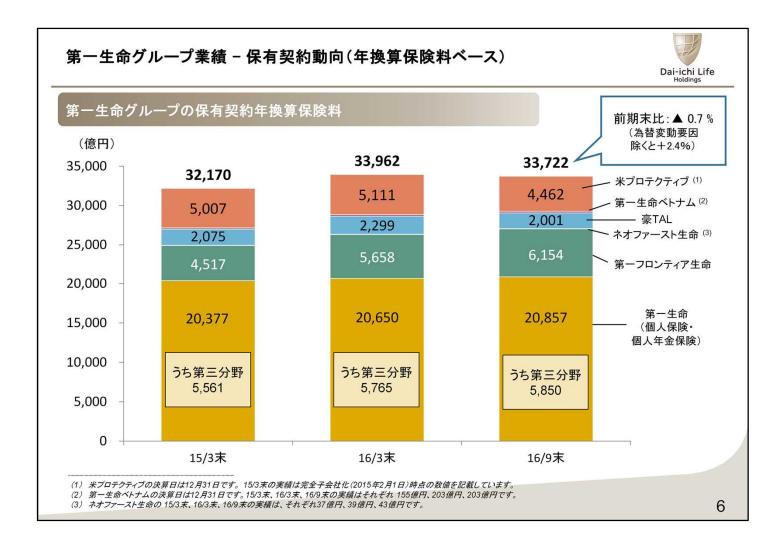
<sup>(1)</sup> 米プロテクティブおよび豪TALの数値は、各国の会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しています。 連結の際には、それぞれ1米ドル=122.45円(16/3期2Q)、102.91円(17/3期2Q)、1豪ドル=84.06円(16/3期2Q)、77.04円(17/3期2Q)で円換算しています。

連結の原には、てれてればネアルー122.45円(10/3朔2Q)、102.91円(17/3朔2Q)、1家アルー64.00円(10/3朔2Q)、77(2) 連結純利益は、親会社株主に帰属する中間純利益を記載しています。

- ■グループ各社の決算についてコメントします。
- 第一生命単体では、一時払商品の販売抑制により、保険料等収入が<u>前年同期比7% 減少</u>しました。ネットの資産運用収支は<u>同3%増加</u>しましたが、その要因は特別勘定における改善であり、一般勘定の運用収支は、円高の進行などにより悪化しました。また、純利益は同7%減となりました。
- なお、保険料等収入の減少には、ただ今ご説明した要因の他、厚生年金基金の解散による一時的な要因が含まれています。当期は厚生年金基金の解散が落着きを見せたことで、保険料等収入が減少すると共に、保険金等支払金も減少しました。
- 第一フロンティア生命では、円建商品の販売停止や外貨建商品の販売減速により、 保険料等収入が<u>同45%減少</u>しました。純利益は純損失へと転じましたが、これは主に、 第1四半期において、国内外の金利低下に伴う責任準備金の繰入れ負担が発生した ためです。ただし、第2四半期には国内金利が上昇したことや、利息配当金収入の増 加により、第1四半期に計上した純損失の多くを相殺しました。
- ■プロテクティブ社は、前年同期が5ヶ月間であるため、前年比較はありませんが、通期の純利益予想である300百万米ドルに向けて、良好な実績となりました。ただし、資産運用に関する利益には同社が契約する再保険会社に帰属すべき一時的な利益が含まれております。なお、この利益は、今後、10年以上かけて再保険会社へ分割して支払いを行います。
- TAL社の保険料等収入は、昨年度下半期に獲得した団体契約の影響により現地通 貨建てで<u>同15%増加</u>しました。個人保険において保険金等支払が増加しましたが、現 地金利の低下に伴う会計的なプラス要因により、純利益は同40%増となりました。
- 5ページをご覧下さい。



- 新契約の動向についてご説明します。
- グラフは第一生命グループの新契約を年換算保険料で示しており、以下は全て年換算保険料ベースで説明しています。
- 第一生命単体の新契約は、平準払の貯蓄商品が牽引し、<u>前年同期比22.9%の増加</u>となりました。一方、主力商品の販売が減少したことで、第三分野の新契約は<u>同6.2%減少</u>しました。今後は、主力商品を中心とした保障性商品の拡販に向け、ヤング層への販売強化、介護・法人マーケットの開拓を進めていきます。
- 第一フロンティア生命の新契約は、据置き期間の短い年金商品の販売が増加したため、<u>同9.3%増加</u>しました。
- プロテクティブの新契約は、前年同期の5ヶ月間の実績に対して、現地 通貨建てで増加しましたが、円高のため円建てでは微減しました。
- TALの新契約は現地通貨建てで<u>同31.0%減</u>、円建てで<u>同36.8%減少</u>しました。
- 第一生命ベトナムの新契約は現地通貨建てで<u>同69.3%増</u>、円建てで<u>同39.1%増加</u>しました。
- 以上から、グループ全体の新契約は同10.5%増加しました。
- 6ページをご覧下さい。



- 保有契約の動向についてご説明します。こちらも年換算保険料ベースで説明しています。
- 第一生命単体の保有契約は前期末比微増となりました。うち、第三分野の保有契約も微増でした。第一フロンティア生命は同8.8%増、プロテクティブは現地通貨建てでは増加したものの、円高の影響で円建てでは同12.7%減少しました。TALは現地通貨建てで同2.6%減、円建てで同13.0%減となりました。第一生命ベトナムは現地通貨建てで保有契約を大きく積み上げましたが、円建てでは横ばいでした。
- 以上から、グループ全体の保有契約は微減となりました。
- 当四半期末は、海外事業の貢献が円高のため前期末比で減少しましたが、現地通貨建てでは成長しています。為替変動要因を除けば、グループ全体でもプラス成長を維持しました。
- 7ページをご覧下さい。

### 第一生命グループ業績 - 基礎利益の状況



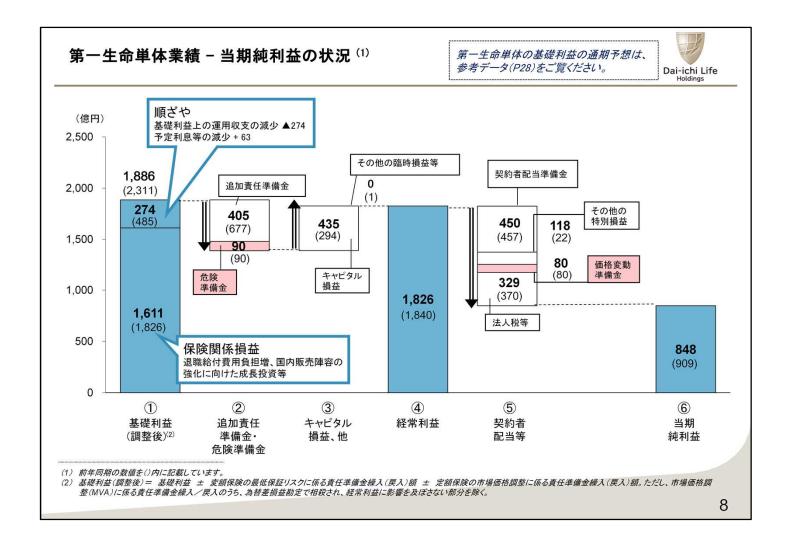
7



- 第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命(15/3期7-9月、16/3期2Q、17/3期2Qのみ)の基礎利益、米プロテクティブの税引前営業利益(16/3期2Q、17/3期2Qのみ)、TALの 修正利益(税引前換算)、第一生命ベトナムの税引前利益を合算し、第一生命グループ内の内部取引の一部を相殺 基礎利益(調整後)= 基礎利益 ± 変額保険の最低保証リスクに係る責任準備金線入(戻入)額 ± 定額保険の市場価格調整に係る責任準備金線入(戻入)額。ただし、市場価格調
- 整(MVA)に係る責任準備金繰入/戻入のうち、為替差損益勘定で相殺され、経常利益に影響を及ぼさない部分を除く

■第一生命グループの基礎利益についてご説明します。

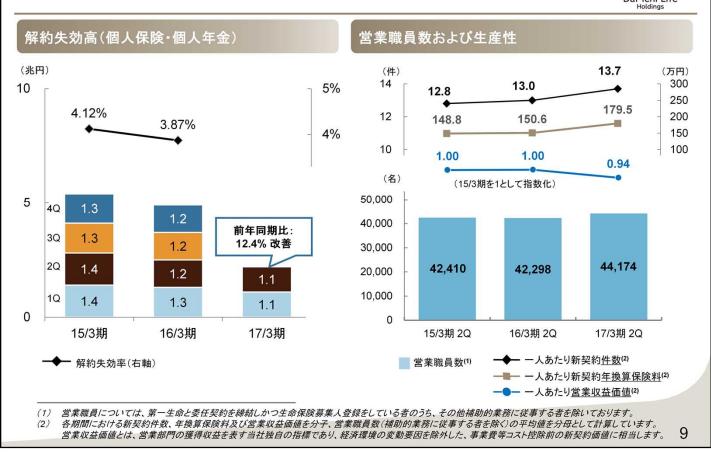
- ■棒グラフでお示ししている調整後の基礎利益は、前年同期の2,780億円 から2.338億円へと、大幅に減少しました。
- ■この変動要因について、右のグラフでご説明します。
- ■第一生命単体では、順ざやと保険関係損益がともに減少したことで、調 整後の基礎利益は大幅な減少となりました。
- ■第一フロンティア生命では、再保険に関するノイズが発生したことで、調 整後の基礎利益が減少しました。
- ■プロテクティブでは、税引前営業利益が増加しました。
- ■8ページをご覧ください。



- ■第一生命単体の状況についてご説明します。
- ■先ほどご説明したとおり、第一生命の調整後の基礎利益は前年同期比で減少しました。うち、順ざや減少の要因は、円高の影響に加え、投資信託の分配金などの一時的な収入が前年同期比で減少したためです。また、保険関係損益の減少については、金利低下に伴い退職給付費用の負担が増加したことや、国内販売チャネル体制の強化に向けた先行投資として、営業職員数を増加させるなどした結果です。こうした影響については、期初予想の発表時点でご説明しておりますが、28ページに再掲しておりますので後ほどご確認ください。
- ■ただし、第2四半期累計期間の為替水準は、期初予想の前提としていた 3月末の水準に比べ大幅に円高で推移したため、順ざやを押し下げました。こうした背景から、第一生命の基礎利益予想を下方修正しました。
- ■追加責任準備金は、期初にご説明の通り、前年同期比で繰入額を減少させました。キャピタル損益は、円高の進行による為替ヘッジのポジションでの利益計上など一時的要因もあり、前年同期比で増加しました。
- ■経常利益・純利益は、主に以上の理由から減少しました。
- ■9ページをご覧ください。

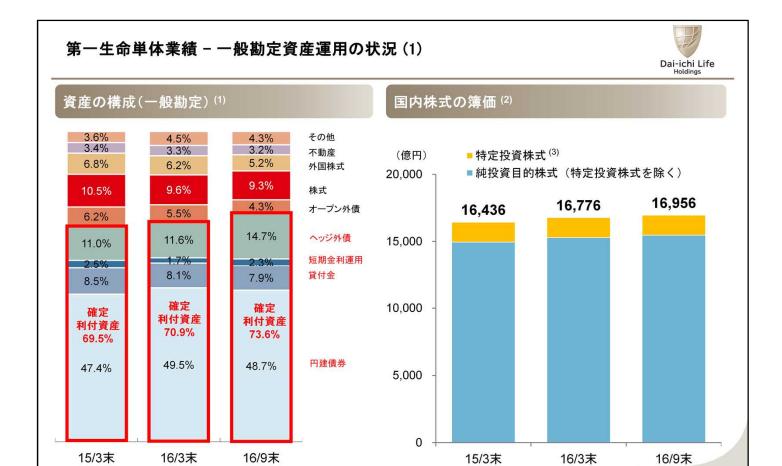
### 第一生命単体業績 - 解約失効高、営業職員数





- 左のグラフは第一生命単体の解約失効高ならびに解約失効率の状況を示しています。解約失効高は前年同期比で12.4%の改善となりました。
- 右のグラフは営業職員数とその生産性の推移を示しています。
- 第一生命では、中期経営計画「D-Ambitious」期間中に、国内中核事業の 持続的な成長に向けて営業職員チャネルの5年間育成体制を定着させるな ど、積極的な戦略投資を行っていますが、こうした取組が着実に成果につな がっており、営業職員数は前年同期末比で反転し、4万4,000名を超えまし た。
- また、新契約件数・新契約年換算保険料も前年同期比で増加しており、一人あたり指標は改善しました。
- 従前よりお示ししていた一人あたり新契約価値は、低金利を踏まえ、金利を 補正した指標で社内指標である営業収益価値をお示ししています。当第2 四半期累計は、平準払の貯蓄商品が販売を牽引したため、一人あたり指標 は悪化しました。冒頭お話したとおり、今後は、主力商品を中心とした保障 性商品の拡販に向けて取り組んでいきます。
- 10ページをご覧下さい。

注: 営業収益価値については、社内指標であるため、今後の環境変化に応じて適宜基準の改訂があり得ます。

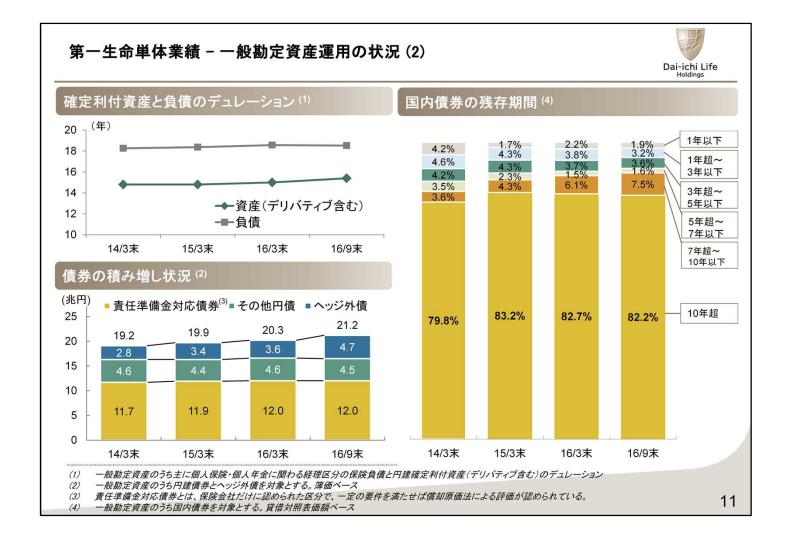


■ 資産運用の状況についてご説明します。

(2) 国内株式のうち時価のあるもの(子会社・関連会社株式、非上場国内株式は除く)。 (3) 純投資目的以外の目的で保有する株式(非上場国内株式、みなし保有株式は除く)。

- 左のグラフは第一生命の一般勘定資産の構成比を示しています。引き続き、ALMと厳格なリスク管理の考え方に基づいて、円建債券など円ベースの確定利付資産中心の運用を行っています。当第2四半期累計は、国内で低金利が継続したことを踏まえ、国債の買い入れを抑制し、ヘッジ外債への配分を前期末比で増やしました。
- 国内株式の構成比は、時価の変動を主な要因として減少しました。右のグラフでは、国内株式の簿価残高を、特定投資株式とそれ以外に分けてお示ししています。当中間期末の株式残高は、成長銘柄への投資を実行したため、前期末比で純投資目的の株式が増加しました。
- 11ページをご覧下さい。

(1) 貸借対照表価額ベース



- 円建債券等の保有状況についてご説明します。
- 左上のグラフは円建ての確定利付き資産と保険負債のデュレーションの推移を示しています。国債については、低金利環境を踏まえて買い入れの抑制を継続した一方、デリバティブを活用することで、デュレーションギャップを一定以内に維持しました。
- 左下のグラフは円建ての確定利付資産のうち、円建債券とヘッジ外債 の簿価残高を示しています。ヘッジ外債に加え、選別的なクレジット投 資やプロジェクトファイナンスの残高を積み増しました。
- 右のグラフは、国内債券の残存期間を示しています。引続き、長期債・ 超長期債を中心とした保有構成となっております。
- 12ページをご覧ください。

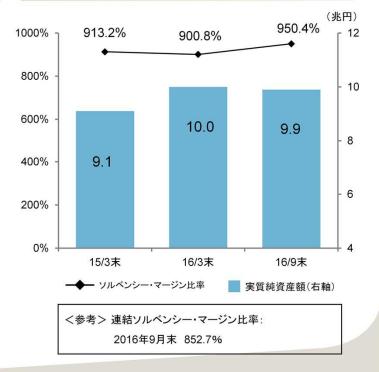
### 第一生命単体業績 - 健全性指標



### 含み損益(一般勘定)

_				(1/6/1 1/
		16/3末	16/9末	増減
有	価証券	62,120	60,120	△1,999
	国内債券	40,229	41,415	+1,185
	国内株式	13,128	12,308	△819
	外国債券	6,787	5,982	△805
	外国株式	1,720	390	△1,329
不	動産	1,303	1,366	+63
そ	の他共計	63,346	61,713	△1,632

### ソルベンシー・マージン比率および実質純資産額



12

■ 第一生命単体の健全性についてご説明します。

(億円)

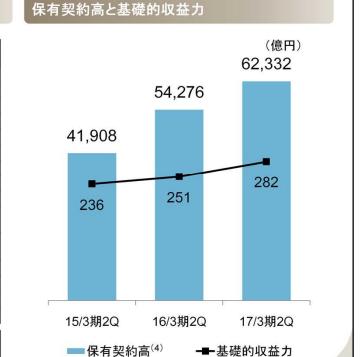
- 一般勘定各資産の含み益は、前期末と比較しますと、国内金利の低下により国内債券の含み益が増加しましたが、円高の進行により外貨建証券の含み益が減少し、一般勘定資産全体で含み益は約1,600億円減少しました。
- 右のグラフで示したソルベンシー・マージン比率は、前期末に比べ<u>約50</u> ポイント上昇し、950.4%となりました。これは、有価証券含み損益の減少の影響を、7月に発行した永久劣後債券による資本調達などの影響が上回ったためです。
- 13ページをご覧下さい。

### 連結子会社業績 - 第一フロンティア生命





		(億円)
	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計
経常収益	10,406	6,355
うち保険料等収入(1)	9,919	5,406
うち変額商品	940	301
うち円建定額商品	1,604	89
うち外貨建定額商品	6,323	4,351
うち資産運用収益	486	615
うち最低保証リスクに対するヘッジ利益(A)	68	75
経常費用	10,082	6,357
うち責任準備金等繰入額(△は戻入)(2)	4,106	△ 326
うち最低保証リスクに係る責任準備金 繰入額(B)	281	293
うち市場価格調整(MVA)に係る責任準 備金繰入額(C) <sup>(3)</sup>	△ 173	84
うち危険準備金繰入額(D)	△ 74	Δ 2
うち資産運用費用	2,446	2,896
うち最低保証リスクに対するヘッジ損失(E)	-	-
経常利益(△は損失)	324	Δ 2
純利益(△は損失)	286	Δ 17
純利益 -(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	251	282



(4) 保有契約高は各期間の末日時点

- 定額部分と変額部分を組み合わせた商品は定額商品に分類 17/3期2Qの責任準備金等線入額(ムは戻入)には、支払備金繰入額とその他経常収益に含まれる責任準
- 備金戻入額の金額を記載しています。 市場価格調整(MVA)に保る責任準備金線入/戻入のうち、為替差損益勘定で相殺されて、経常利益に影響を及ぼさない部分を除く。

- 第一フロンティア生命の状況についてご説明します。
- 当第2四半期累計では、内外金利や為替など金融環境の変動に伴い、 銀行窓口等における保険販売の市場全体が縮小する中、保険料等収 入は前年同期比で大幅に減少しました。
- 経常利益・純利益が前年同期比で大幅に減少しましたが、これは主 に、市場価格調整に係る責任準備金が、前年同期の戻入れから繰入 れに転じたためです。ただし、国内外の金利低下に伴い第1四半期に 繰入れた準備金の一部が、第2四半期の国内金利の上昇によって戻 入れとなったほか、利息配当金収入が増加したことで、第1四半期に計 上した純損失の多くを、第2四半期に相殺することができました。
- 右のグラフでお示しした基礎的収益力は、会計利益に市場変動要因を 調整した収益指標です。基礎的収益力は、保有契約の積み上がりに伴 い増加しました。
- 14ページをご覧下さい。

### 連結子会社業績 - プロテクティブ社



#### 主要業績(1)(2)

			(百万米ドル)
	16/3期 2Q累計 (2-6月)	17/ 2Q≸ (1-6	<b>表計</b>
	実績	予算	実績
生保事業	10.0	37.9	38.2
買収事業	73.9	116.3	113.9
年金事業	87.3	111.0	110.5
ステーブルバリュー事業	15.4	14.5	29.6
アセットプロテクション事業	9.9	12.4	10.7
コーホ゜レート	△ 7.9	△ 34.8	△ 30.4
税引前営業利益	188.8	257.3	272.6
キャピタル損益(運用収支)	△ 158.6	n.a.	184.0
キャピタル損益(金融派生商品損益)	159.5	n.a.	△ 116.2
法人税等	△ 63.0	△ 87.5	△ 113.0
当期利益	126.7	148.9	227.4

#### く参考>

	15/6末		16/6末
為替レート(米ドル)	122.45	n.a.	102.91

(1) 米プロテクティブの決算日は12月31日です。16/3期2Q累計の実績は、子会社化(2015年2月1日)以降 同年6月までの5ヶ月間の実績です。

日)以降、同年6月までの5ヶ月間の実績です。 (2) 税引前営業利益(Pre-tax Operating Earnings)とは、当期利益から資産運用やデリバティブにおけるキャピタル損益を控除した利益指標です。

### セグメント別 予算・実績比較

#### 【生保事業】

• 予算対比で危険差益が悪化したが、良好な運 用収支等により予算どおりの進捗

#### 【買収事業】

予算対比で運用収支や事業費が良好だったが、危険差益の悪化や解約の増加により予算を僅かに未達

#### 【年金事業】

予算対比で変額年金に係るフィー収入、利ざやなどが減少したが、危険差益は良好であり予算 どおりの進捗

#### 【ステーブルバリュー事業】

予算対比で良好な利ざやなどを確保したことで 予算を大幅達成ペースで進捗

#### 【アセットプロテクション事業】

一部の商品において、予算対比で支払が増加し、予算未達ペースで進捗

- プロテクティブ社の状況についてご説明します。
- 当期の業績は、買収事業において、ジェンワース社から買収した定期 保険ブロックが利益貢献を開始したことや、ステーブルバリュー事業に おける利ざやの拡大などにより、好調に推移しました。
- こうしたことで、税引前営業利益は通期予算に対して良好に進捗しました。また、前年同期が5ヶ月しかないため単純比較はできないものの、前年同期比でも大幅な伸びとなりました。純利益も良好に推移しておりますが、冒頭お話しましたとおり、資産運用に関する利益には、同社が契約する再保険会社に帰属すべき一時的な利益が含まれています。
- 15ページをご覧下さい。

#### 連結子会社業績 - 豪TAL <sup>⑴</sup> Dai-ichi Life 団体保険(既契約増減) 新契約年換算保険料 主要業績 団体保険(獲得新契約) 個人保険(既契約増減) (百万豪ドル) 200 前年 個人保険(獲得新契約) 154 司期比 2Q累計 150 133 106 28 経常収益 (2) 1,626 +13% 1,844 100 45 50 うち保険料等収入 (2) 1,449 1,662 +15%42 +62% 経常利益(2) 75 122 50 74 73 68 純利益(A) (2) 56 78 +40% 0 A 23 修正額(B) 25 △ 50 うち負債割引率の変化 0 △ 9 15/3期 2Q累計 16/3期 2Q累計 17/3期 2Q累計 10 うち償却負担 10 その他 15 0 保有契約年換算保険料 団体保険 個人保険 修正利益=(A)+(B) (百万豪ドル) △2% 81 79 (Underlying profit) 3,000 2,666 2,597 2,254 〈参考〉 2,000 1.655 1,540 1,325 為替レート(豪ドル) 84.06円 77.04円 1,000 1,010 1,057 929 (1) 連結対象の豪持株会社(TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd)に係る数値 0 オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて 15/3末 16/9末 16/3末 組み替えた上で開示しております(修正額及び修正利益を除く)。 15

- TALの状況についてご説明します。
- 右上の、豪ドル建ての新契約年換算保険料は、個人保険で<u>前年同期</u> <u>比4%増</u>となりました。団体保険では、前年同期と同様に、一部の団体に おける支払実績の改善を踏まえた料率改定を行ったことにより、既契 約部分がマイナスとなりました。こうしたことを受け、保有契約年換算保 険料も前期末比で同3%減少しました。
- 保険料等収入は、昨年度第3四半期に獲得した団体契約の影響により 同15%増となりました。しかし、個人保険において保険金等の支払いの 状況は悪化し、修正利益は同2%減となりました。
- 一方、会計上の利益は、金利変動を背景とする会計的影響により、<u>同</u> 40%増加しました。
- 金利の低下は国際会計基準を採用するTALのバランスシート構造上、 利益を押し上げる要因になります。前年同期にはこうした影響は限定 的でしたが、当第2四半期累計では金利が低下したため、純利益を約9 百万豪ドル押し上げています。
- 16ページをご覧下さい。

### 第一生命グループ業績予想 - 2017年3月期業績予想



- 当第2四半期累計の業績は、概ね計画に沿った進捗。ただし、第一フロンティア生命における保険販売の進 捗や、第一生命における円高の影響を踏まえ、業績予想を一部下方修正。
- 経常利益、純利益の予想は据え置き。1株当たり配当金も予想を据え置き。

			(億円)	(参考)
	16/3期	17/3期(予) ※2016/11/14 発表予想	増減	17/3期(予) ※2016/5/13 発表予想
車結経常収益	73,339	62,770	Δ 10,569	64,600
第一生命単体(1)	42,657	37,960	△ 4,697	37,960
第一フロンティア生命	19,675	12,180	△ 7,495	14,010
プロテクティブ (百万米ドル)	6,784	8,460	+ 1,675	8,460
TAL(百万豪ドル)	3,231	3,900	+ 668	3,900
車結経常利益	4,181	4,060	Δ 121	4,060
第一生命単体	3,442	3,240	△ 202	3,24
第一フロンティア生命	296	210	△ 86	21
プロテクティブ (百万米ドル)	399	460	+ 60	46
TAL(百万豪ドル)	152	180	+ 27	18
車結純利益 <sup>(2)</sup>	1,785	1,970	+ 184	1,970
第一生命単体	1,291	1,330	+ 38	1,33
第一フロンティア生命	243	150	△ 93	15
プロテクティブ (百万米ドル)	268	300	+ 31	30
TAL(百万豪ドル)	119	120	+ 0	12
1株当たり配当金	35円	40円	+5円	40F
参考:基礎利益)				
第一生命グループ	5,351	4,600程度	△ 751	5,000程度
第一生命単体	4,654	3,500程度	△ 1,154	3,800程度

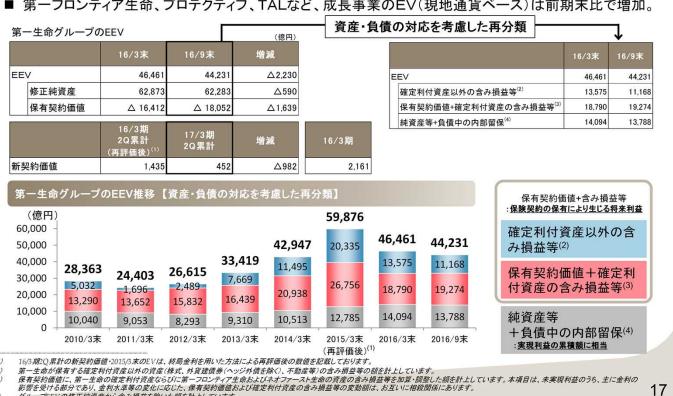
(1) 持株会社体制移行に伴う第一生命単体の考え方につきましては、詳しくは29ページをご覧ください。(2) 連結純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。

- 続いて第一生命グループの2017年3月期連結業績予想についてご 説明します。
- 冒頭でお示しした通り、当第2四半期累計期間の業績は、通期業績予 想に対して概ね計画に沿った進捗となりました。しかし、個別に見れ ば、第一フロンティア生命において販売が減速したほか、第一生命に おいては、足元までの円高により外国証券からの利息配当金が円べ一 スで減少しました。こうしたことを踏まえ、経常収益と基礎利益の予想を 引き下げました。
- 経常利益、純利益の予想は据え置きとしました。内外の金融・経済環 境の変化がグループ損益に与える影響を慎重に見極める必要がある と考えているためです。
- 17ページをご覧ください。

#### EEV - ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー(1)



- 2016年9月末のグループEEVは、主に円高の影響により、前期末比で減少。
- 第一フロンティア生命、プロテクティブ、TALなど、成長事業のEV(現地通貨ベース)は前期末比で増加。



- ■2016年9月末のグループ・エンベディッド・バリューについてご説明します。 本日時点では、まだ第三者意見を得ていないため、要約での開示となりま す。
- ■2016年9月末のEVは約4.4兆円となりました。円高の影響が大きく前期末 に比べ約2,200億円の減少となります。超長期ゾーンの国内金利は、6月末 からは大幅に戻したものの、3月末の水準と比べると概ね横ばいだったた め、金利の影響は限定的でした。
- ■ページ下段には、第一生命グループのEVについて、資産・負債の対応関係 を考慮して再分類し表示したものです。従来、こうした再分類は第一生命単 体のEVにおいてお示ししていましたが、今回よりグループEVとしています。
- ■低金利の影響により保有契約価値がマイナスとなっていますが、会計利益 がマイナスになることを意味するものではありません。これは、第一生命をは じめグループ各社においてALM運用をしており、修正純資産には債券等の 含み益が計上されているためです。したがって、将来、会計利益として実現 することが期待されるのは、保有契約価値だけではなく含み損益等も考慮し た額となります。スライド下段にお示ししたとおり、株式等の含み損益が大き く変動するものの、経常的にプラスを維持しております。
- ■18ページをご覧ください。

グループEEVの修正純資産から含み損益を除いた額を計上しています

### EEV - ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー(2)



	16/3末	16/9末	増減					
EEV	44,414	42,588	△1,826					
修正純資産	64,833	64,620	△213					
保有契約価値	△ 20,419	△ 22,032	△1,612					
	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	増減	16/3期				
	(再評価後) <sup>(1)</sup>	20(余司						
新契約価値		293	△718	1,346				
	(再評価後) <sup>(1)</sup> 1,012	0.000.000	△718	1,346	ネオファースト生命	र्त		(億円
	(再評価後) <sup>(1)</sup> 1,012	0.000.000	10000	1,346	ネオファースト生命	16/3末	16/9末	(億P 
第一フロンティア生	(再評価後) <sup>(1)</sup> 1,012 命	293	(億円)	1,346	ネオファースト生育 EEV		16/9末 406	増減
第一フロンティア生	(再評価後) <sup>(1)</sup> 1,012 命 16/3末	293 16/9末	(億円)	1,346		16/3末		増減
第一フロンティア生	(再評価後) <sup>(1)</sup> 1,012 命 16/3末 3,032	293 16/9末 3,085	(億円) 増減 +53	1,346	EEV	16/3末 414	406	(億P 増減 企
(MELSY, CONTROL MARKET SOURCE	(再評価後) <sup>(1)</sup> 1,012 命 16/3末 3,032 1,838	293 16/9末 3,085 2,258	(億円) 増減 +53 +420	1,346	EEV	16/3末 414 277	406 249	増減 △ △:

- ■グループ各社のEVをお示ししています。第一生命のEVは、低金利が継続する中で円高が進行したため、前期末比で<u>約1,800億円減少</u>しました。
- ■第一フロンティア生命や、次のページでお示しした海外子会社2社のE Vは、<u>現地通貨建てで増加</u>しました。
- ■本日は第2四半期決算についてご説明しましたが、11月22日には社長の渡邉が事業戦略についてアップデートさせて頂く予定ですので、是非ご参加下さい。
- ■以上で、私からの説明を終了させて頂きます。

### EEV - ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー (3)



プロテクティブ			(億円)
	15/12末	16/6末	増減
EEV	5,512	5,220	△292
修正純資産	4,149	3,463	△685
保有契約価値	1 363	1 756	+393

プロテクティブ(	米ドルベース)		(百万米ドル)
	15/12末	16/6末	増減
EEV	4,570	5,072	+501
修正純資産	3,440	3,365	△74
保有契約価値	1,130	1,707	+576

	15/2−6月 累計	16/1-6月 累計
新契約価値	22	8

15/2-12月	ĺ
<del>лан</del> 1	6

	15/2-6月 累計	16/1-6月 累計
新契約価値	18	8

15/2-12月 累計
46

15/2-6月累計の新契約価値: 15/6末の為替レート(1米ドル=122.45円)を使用 15/12末EEV・15/2-12月累計の新契約価値: 15/12末の為替レート(1米ドル=120.61円)を使用 16/6末EEV・16/1-6月累計の新契約価値: 16/6末の為替レート(1米ドル=102.91円)を使用

TAL			(億円)
	16/3末	16/9末	増減
EEV	2,673	2,515	△157
修正純資産	1,359	1,276	△83
保有契約価値	1,313	1,238	△74

TAL(豪ドルベース	.)		(百万豪ドル)
	16/3末	16/9末	増減
EEV	3,099	3,265	+166
修正純資産	1,576	1,657	+80
保有契約価値	1,522	1,608	+85

	16/3期 2Q累計		
新契約価値	73	70	Δ2

	16/3期 2Q累計		
新契約価値	86	91	+4

16/3期

16/3期2Q累計の新契約価値: 15/9末の為替レート(1豪ドル= 84.06円)を使用 16/3末EEV・16/3期の新契約価値: 16/3末の為替レート(1豪ドル= 86.25円)を使用 16/9末EEV・17/3期2Q累計の新契約価値: 16/9末の為替レート(1豪ドル= 77.04円)を使用



参考データ

## 参考データ - 第一生命グループ業績 - グループ各社の貸借対照表



	【第一生命】	【第一フロンティア生命】	【米プロテクティプ】 <sup>(1)</sup>	【豪TAL】 <sup>(1)</sup>	【その他】 <sup>(2)</sup> (連結調整仕訳含む)	【連結】 <sup>⑵</sup>
	(億円)	(億円)	(百万米ドル)	(百万豪ドル)	(億円)	(億円)
	16/9末	16/9末	16/6末	16/9末		16/9末
資産の部合計	361,939	62,534	74,866	7,172	△9,627	497,418
うち現預金・コール	8,187	993	430	1,355	380	11,050
うち有価証券	303,708	57,984	56,457	2,909	△9,170	412,864
うち貸付金	28,079	=	7,422		15	35,733
うち有形固定資産	11,496	2	110	0	5	11,618
うち無形固定資産	834	34	2,849	1,192	△898	3,821
うちのれん	-	_	732	786	△888	471
うちその他の無形固定資産	225	0	2,100	406	Δ0	2,699
うち再保険貸	23	621	184	182	△23	952
負債の部合計	332,149	61,641	69,139	4,951	278	469,035
うち保険契約準備金	307,462	59,154	59,819	3,590	269	431,213
うち再保険借	6	1,495	244	307	△22	1,967
うち社債	4,762	-	4,345			9,234
うちその他負債	11,853	717	2,893	950	△322	15,957
純資産の部合計	29,790	893	5,726	2,221	△9,905	28,382
うち株主資本合計	12,065	410	5,960	2,221	△8,512	11,807
うち資本金	3,431	1,175	0	1,630	△2,431	3,431
うち資本剰余金	3,434	675	5,554	-	△6,527	3,297

<sup>(1)</sup> 米プロテクティブ、豪TALの数値は、それぞれ米国、オーストラリアの会計基準で作成した財務請表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております。連結の際には、1米ドル =102.91円、1豪ドル=77.04円で、それぞれ円換算しています。 (2) その他および連結の数値には、本表に記載以外の連結各社に関する数値等が含まれています。

## 参考データ - 第一生命(単体)財務諸表(要約)



## 損益計算書 (1)

(億円)

			(1/0/1 1/
	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	増減
経常収益	21,049	20,277	△772
保険料等収入	14,071	13,142	△928
資産運用収益	5,459	5,262	△197
うち利息・配当金等収入	4,046	3,768	△278
うち有価証券売却益	1,217	896	△321
うち金融派生商品収益	-	381	+381
その他経常収益	1,518	1,872	+353
経常費用	19,209	18,450	△758
うち保険金等支払金	13,631	11,453	Δ2,177
うち責任準備金等繰入額	267	1,613	+1,346
うち資産運用費用	1,624	1,304	△320
うち有価証券売却損	327	313	Δ14
うち有価証券評価損	50	95	+44
うち金融派生商品費用	246	-	△246
うち為替差損	285	435	+150
うち特別勘定資産運用損	355	98	△25
うち事業費	2,015	2,088	+7:
経常利益	1,840	1,826	Δ14
特別利益	1	44	+43
特別損失	104	243	+139
契約者配当準備金繰入額	457	450	Δ
税引前純利益	1,280	1,177	△102
法人税等合計	370	329	Δ4
純利益	909	848	△61

## 貸借対照表

(億円)

			(INEXT 1)
	16/3末	16/9末	増減
資産の部合計	358,949	361,939	+2,990
うち現預金・コール	6,452	8,187	+1,735
うち買入金銭債権	2,332	2,153	△178
うち有価証券	302,501	303,708	+1,207
うち貸付金	28,260	28,079	△180
うち有形固定資産	11,641	11,496	△145
負債の部合計	327,917	332,149	+4,231
うち保険契約準備金	306,352	307,462	+1,110
うち責任準備金	299,842	301,413	+1,571
うち危険準備金	5,760	5,850	+90
うち社債	2,157	4,762	+2,605
うちその他負債	10,950	11,853	+902
うち退職給付引当金	3,779	3,825	+45
うち価格変動準備金	1,484	1,564	+80
うち繰延税金負債	1,386	819	△567
純資産の部合計	31,031	29,790	△1,241
うち株主資本合計	11,755	12,065	+309
うち評価・換算差額等合計	19,266	17,716	△1,550
うちその他有価証券評価差額金	19,469	17,804	△1,665
うち土地再評価差額金	△164	△186	△22

<sup>(1)</sup> 特別勘定資産運用損益は、責任準備金の戻入れ/繰入れで相殺されるため、 経常利益に影響するものではありません

## 参考データ - 第一フロンティア生命財務諸表(要約)



## 損益計算書

## 貸借対照表

	(億円				
		16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	増減	
経	常収益	10,406	6,355	△4,050	
	保険料等収入	9,919	5,406	△4,512	
	資産運用収益	486	615	+129	
	その他経常収益	0	332	+332	
	うち責任準備金戻入額		332	+332	
経	常費用	10,082	6,357	△3,724	
	うち保険金等支払金	2,960	3,102	+141	
	うち責任準備金等繰入額	4,106	6	△4,100	
	うち資産運用費用	2,446	2,896	+449	
	うち為替差損	1,445	2,499	+1,054	
	うち事業費	510	319	△191	
経	常利益(Δは損失)	324	Δ2	△326	
特	別損益	△12	△15	Δ2	
税	引前純利益(Δは損失)	311	△17	△328	
法	人税等合計	24	0	△24	
純	利益(Δは損失)	286	Δ17	△304	

		3-		(億円)
		16/3末	16/9末	増減
資	産の部合計	61,322	62,534	+1,211
	うち現預金	1,184	993	△190
	うち有価証券	58,365	57,984	△381
負	債の部合計	60,463	61,641	+1,177
	うち保険契約準備金	59,481	59,154	△326
	うち責任準備金	59,411	59,078	△332
	うち危険準備金	1,146	1,144	Δ2
純	資産の部合計	859	893	+34
	うち株主資本合計	427	410	△17
	資本金	1,175	1,175	=
	資本剰余金	675	675	-
	利益剰余金	△1,422	△1,439	△17

## 参考データ - 米プロテクティブ財務諸表(要約)



### 損益計算書 (1)(2)

### 貸借対照表 (1)(2)

(百万米ドル)

	16/3期 2Q累計 (2-6月)	17/3期 2Q累計 (1-6月)
経常収益	3,472	4,312
保険料等収入	2,130	2,693
資産運用収益	1,149	1,412
その他経常収益	193	206
経常費用	3,282	3,971
保険金等支払金	1,865	2,393
責任準備金等繰入額	929	807
資産運用費用	60	284
事業費	308	384
その他経常費用	118	100
経常利益	189	340
法人税等合計	63	113
純利益	126	227

資産の部合計68,49374,866+6,373うち現預金397430+33うち有価証券50,84356,457+5,613うち貸付金7,3607,422+61うち有形固定資産113110△3うち無形固定資産2,6632,849+185うちのれん732732-うち再保険貸165184+18負債の部合計63,91269,139+5,227うち保険契約準備金57,89359,819+1,925うち再保険借244244△0うち社債2,2384,345+2,107うちその他負債2,4092,893+483練資産の部合計4,5815,726+1,145株主資本合計5,8225,960+138その他の包括利益累計額合計△1,241△233+1,007				(百万米ドル)
うち現預金   397   430   +33   55,457   +5,613   55有価証券   50,843   56,457   +5,613   55貸付金   7,360   7,422   +61   55有形固定資産   113   110   △3   55無形固定資産   2,663   2,849   +185   55のれん   732   732   - 55その他の無形固定資産   1,915   2,100   +185   55再保険貸   165   184   +18   4		15/12末	16/6末	増減
うち有価証券   50,843   56,457   +5,613     うち貸付金   7,360   7,422   +61     うち有形固定資産   113   110   △3     うち無形固定資産   2,663   2,849   +185     うちのれん   732   732   -	資産の部合計	68,493	74,866	+6,373
うち貸付金	うち現預金	397	430	+33
うち有形固定資産       113       110       △3         うち無形固定資産       2,663       2,849       +185         うちのれん       732       732       -         うちその他の無形固定資産       1,915       2,100       +185         うち再保険貸       165       184       +18         負債の部合計       63,912       69,139       +5,227         うち保険契約準備金       57,893       59,819       +1,925         うち再保険借       244       244       △0         うち社債       2,238       4,345       +2,107         うちその他負債       2,409       2,893       +483         練資産の部合計       4,581       5,726       +1,145         株主資本合計       5,822       5,960       +138	うち有価証券	50,843	56,457	+5,613
うち無形固定資産       2,663       2,849       +185         うちのれん       732       732       -         うちその他の無形固定資産       1,915       2,100       +185         うち再保険貸       165       184       +18         負債の部合計       63,912       69,139       +5,227         うち保険契約準備金       57,893       59,819       +1,925         うち再保険借       244       244       △0         うち社債       2,238       4,345       +2,107         うちその他負債       2,409       2,893       +483         練資産の部合計       4,581       5,726       +1,145         株主資本合計       5,822       5,960       +138	うち貸付金	7,360	7,422	+61
うちのれん732732-うちその他の無形固定資産1,9152,100+185うち再保険貸165184+18負債の部合計63,91269,139+5,227うち保険契約準備金57,89359,819+1,925うち再保険借244244△0うち社債2,2384,345+2,107うちその他負債2,4092,893+483純資産の部合計4,5815,726+1,145株主資本合計5,8225,960+138	うち有形固定資産	113	110	∆3
うちその他の無形固定資産 1,915 2,100 +185     うち再保険貸 165 184 +18	うち無形固定資産	2,663	2,849	+185
うち再保険貸165184+18負債の部合計63,91269,139+5,227うち保険契約準備金57,89359,819+1,925うち再保険借244244△0うち社債2,2384,345+2,107うちその他負債2,4092,893+483純資産の部合計4,5815,726+1,145株主資本合計5,8225,960+138	うちのれん	732	732	_
負債の部合計63,91269,139+5,227うち保険契約準備金57,89359,819+1,925うち再保険借244244△0うち社債2,2384,345+2,107うちその他負債2,4092,893+483純資産の部合計4,5815,726+1,145株主資本合計5,8225,960+138	うちその他の無形固定資産	1,915	2,100	+185
うち保険契約準備金   57,893   59,819   +1,925   55再保険借   244   244   △0   うち社債   2,238   4,345   +2,107   うちその他負債   2,409   2,893   +483   (株主資本合計   4,581   5,726   +1,145   株主資本合計   5,822   5,960   +138	うち再保険貸	165	184	+18
うち再保険借   244   244   △0   うち社債   2,238   4,345   +2,107   うちその他負債   2,409   2,893   +483   (株主資本合計   5,822   5,960   +138   138	負債の部合計	63,912	69,139	+5,227
うち社債2,2384,345+2,107うちその他負債2,4092,893+483純資産の部合計4,5815,726+1,145株主資本合計5,8225,960+138	うち保険契約準備金	57,893	59,819	+1,925
うちその他負債2,4092,893+483純資産の部合計4,5815,726+1,145株主資本合計5,8225,960+138	うち再保険借	244	244	Δ0
純資産の部合計4,5815,726+1,145株主資本合計5,8225,960+138	うち社債	2,238	4,345	+2,107
株主資本合計 5,822 5,960 +138	うちその他負債	2,409	2,893	+483
	純資産の部合計	4,581	5,726	+1,145
その他の包括利益累計額合計 △1,241 △233 +1,007	株主資本合計	5,822	5,960	+138
	その他の包括利益累計額合計	△1,241	△233	+1,007

<sup>(1)</sup> 米国の会計基準で作成した財務語表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております。(2) 米プロテクティブの決算日は12月31日です。16/3期2Qの実績は、子会社化(2015年2月1日)以降、同年6月までの5ヶ月間の実績です。

## 参考データ - 豪TAL財務諸表(要約)



## 損益計算書 (1)(2)

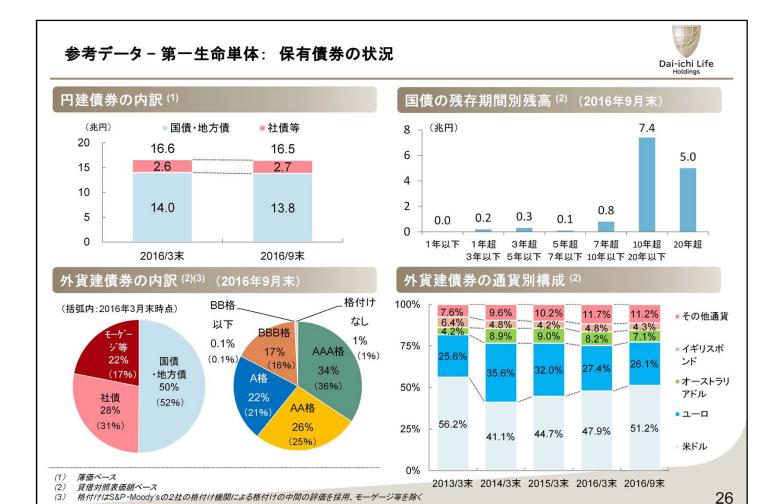
## 貸借対照表 (1)(2)

白	万	豪	F)	し)	
_		25		- /	

	口/3条1/0/		
	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	増減
経常収益	1,626	1,844	+218
保険料等収入	1,449	1,662	+212
資産運用収益	14	138	+124
その他経常収益	162	44	△118
経常費用	1,550	1,722	+171
保険金等支払金	937	1,135	+198
責任準備金等繰入額	168	173	+4
資産運用費用	90	22	△68
事業費	301	334	+33
その他経常費用	53	56	+3
経常利益	75	122	+46
法人税等合計	19	44	+24
純利益	56	78	+22
修正利益 (Underlying profit)	81	79	Δ1

		(	百万豪ドル)
	16/3末	16/9末	増減
資産の部合計	7,043	7,172	+129
現預金	1,358	1,355	△2
有価証券	2,859	2,909	+50
有形固定資産	0	0	Δ0
無形固定資産	1,207	1,192	△14
のれん	786	786	-
その他無形固定資産	420	406	△14
再保険貸	148	182	+34
その他資産	1,470	1,531	+61
負債の部合計	4,890	4,951	+60
保険契約準備金	3,491	3,590	+99
再保険借	332	307	△24
その他負債	978	950	△28
繰延税金負債	89	103	+13
純資産の部合計	2,152	2,221	+68
株主資本合計	2,152	2,221	+68
資本金	1,630	1,630	-
利益剰余金	522	590	+68

<sup>(1)</sup> 連結対象の豪持株会社(TAL Dai−ichi Life Australia Pty Ltd)/に係る数値 (2) オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております(修正利益を除く)。



### 参考データ - 金融市場への感応度(2016年9月末、第一生命単体)



### 感応度(1)

### 含み損益ゼロ水準(2)

### 国内株式

日経平均株価 1,000円の変動で 1,700億円の増減 (2016年3月末:1,700億円)

### 日経平均株価 ¥9,600

#### (2016年3月末:¥9,400)

### 国内债券

10年国債利回り 10bpの変動で 2,900億円の増減※ (2016年3月末:2,900億円)

※その他有価証券区分:400億円の増減 (2016年3月末:400億円)

#### 10年国債利回り 1.3% \*\*

(2016年3月末:1.3%)

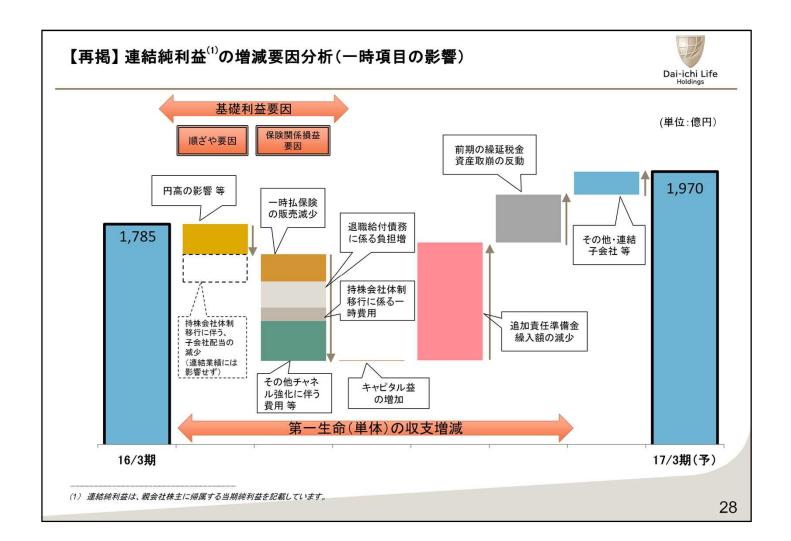
※その他有価証券区分:1.4% (2016年3月末: 1.4%)

### 外国証券

ドル/円 1円の変動で 270億円の増減 (2016年3月末: 290億円)

ドル/円 1 = 103(2016年3月末:¥103)

- (1)



### 【再掲】持株会社体制への移行に伴う、第一生命単体の収支状況の開示



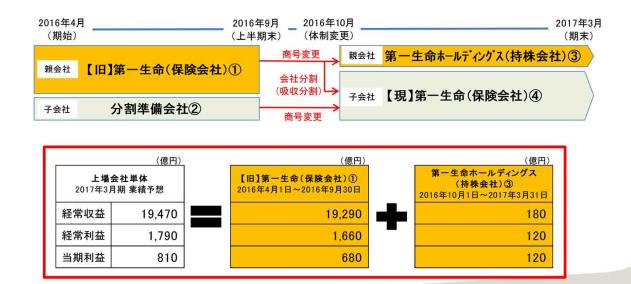
- 当プレゼンテーション資料で示している<u>第一生命単体</u>の2017年3月期業績予想は、持株会社体制移行前の第一生命単体(下図①)の 上期業績予想に、持株会社体制移行後の第一生命保険株式会社(同④)の下期業績予想を合算したものです。第一生命分割準備 株式会社(同②)が計上する損益は限定的です。
- 持株会社体制移行前の第一生命単体の利息配当金等収入の一部には子会社・関連会社から支払われた配当が含まれています。 持株会社体制への移行に伴い、第一生命ホールディングス株式会社傘下となった第一生命をはじめとする子会社・関連会社の配当 は、第一生命ホールディングスの利息配当金等収入として計上されます。その分第一生命単体の収益は減少しますが、連結収支に 対する影響はありません。
- 第一生命ホールディングスの収支は、経常収益が子会社からの配当収入や経営管理料が主要項目となり、経常費用は持株会社運営費用が主要項目となります。第一生命ホールディングスの17年3月期の業績予想は(下図③)で示した通りです。
- なお、上場会社単体としての2017年3月期業績予想につきましては、30ページをご覧ください。



### 【再掲】参考データ - 上場会社単体としての2017年3月期業績予想



- 当社は2016年10月1日付で持株会社体制へ移行しました。持株会社体制移行前は第一生命として上場しておりましたが、 持株会社体制移行後は「第一生命ホールディングス株式会社」に商号変更の上、上場を継続しております。
- そのため、上場会社単体としての2017年3月期業績予想につきましては、持株会社体制移行前の第一生命単体①の上期 業績予想に第一生命ホールディングス③の業績予想を合算した数値となります。





#### 本資料の問い合わせ先

第一生命ホールディングス株式会社 経営企画ユニット IRグループ 電話:050-3780-6930

#### 免責事項

本プレゼンテーション資料の作成にあたり、第一生命ホールディングス株式会社(以下「当社」という。)は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。